

JILPT 調査シリーズ

No. 13

2005年11月

# 働き盛り世代の仕事と 生活に関する追跡調査

The Japan Institute  
for  
Labour Policy and Training

独立行政法人 労働政策研究・研修機構



# 働き盛り世代の仕事と生活に関する追跡調査

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

## まえがき

本調査研究は、縦断的調査の事前準備として位置づけられ、先行調査の検討、プリテスト等を通じて、追跡調査の調査票の設計、調査方法、調査体制、分析方法、調査対象者の管理等の調査実査について検討することを目的として実施したものである。プリテストのテーマとして中高年を対象とした調査の実施を念頭においている。

我が国では無数といえるほどの社会調査が実施されているものの、その多くが横断的調査であり、実施された調査全体に占める縦断的調査の割合は小さい。それゆえ、調査方法、調査実査、データ管理、分析手法など、調査のノウハウを含めた調査方法に関する情報は最近になってようやく蓄積されてきた。縦断的調査のプリテストを実施することで、そうした情報を補完することにつながると思われる。

なお、この調査のもととなった第1回調査は、労働問題リサーチセンターの研究助成を受けて働き盛り世代の仕事と生活に関する追跡調査研究会（代表：高梨昌信州大学名誉教授）が2003年に実施した「働き盛り世代の仕事と生活に関する追跡調査」である。同データの利用等に際して労働問題リサーチセンターから種々の便宜をはかっていただいた。記してお礼を申し上げる。

2005年11月

独立行政法人労働政策研究・研修機構  
理事長 小野 旭

執筆担当者

氏 名

所 属

わた なべ ひろ あき  
渡 邊 博 顕

労働政策研究・研修機構 労働経済分析研究員

研究会委員（五十音順）

秋山恵一（労働政策研究・研修機構情報解析部情報解析課長、2004年4月から）

井嶋俊幸（元労働政策研究・研修機構情報解析部情報解析課長、2004年3月まで）

今田幸子（労働政策研究・研修機構仕事と生活統括研究員）

岩田克彦（元労働政策研究・研修機構統括研究員、2004年7月まで）

座長 高梨 昌（信州大学名誉教授）

本川 明（労働政策研究・研修機構情報解析部長（2005年6月まで）、労働政策  
研究・研修機構企業と雇用統括研究員（2005年6月から））

弓場美裕（元労働政策研究・研修機構主任研究員、2004年3月まで）

渡邊博顕（労働政策研究・研修機構研究員）

オブザーバー

等々力正夫（厚生労働省大臣官房統計情報部雇用統計課長）

山田 敏充（厚生労働省大臣官房統計情報部企画課）

# 目 次

序章	1
第 I 部 縦断的調査の方法論をめぐって	
第 1 章 縦断的調査の概要	3
1 はじめに	3
2 既存の縦断的調査について	3
第 2 章 縦断的調査の実査を中心とした問題点	21
1 縦断的調査の問題点	21
2 先行調査主体から見た縦断的調査を実施する上での課題	22
3 本章のまとめ	27
第 3 章 独自調査の概要について	29
1 はじめに	29
2 調査票について	29
3 第 1 回調査票について	33
4 第 1 回調査の実査について	35
5 第 1 回調査の記入状況と第 2 回調査への含意	37
6 調査票の様式及び調査項目の変更点について	40
7 第 2 回調査の実査の概要	41
8 データのマッチングについて	45
9 本章のまとめ	48
第 4 章 調査データをめぐる問題：職歴データの例	50
1 はじめに	50
2 先行の縦断的調査における職歴データの収集	50
3 第 1 回調査における職歴データ	56
4 第 2 回調査における職歴データ	56
5 まとめ	60
第 II 部 調査結果の概要	
第 5 章 回答者の基本属性	63
1 はじめに	63
2 第 2 回調査回答者の属性	63
第 6 章 この 1 年間の出来事	74
1 はじめに	74
2 過去 1 年間の出来事	74

3 過去1年間の出来事のまとめ .....	77
第7章 職業生活 .....	78
1 はじめに .....	78
2 職業経歴の全体像 .....	78
3 年齢と職歴の関係 .....	79
4 現職 .....	83
5 今後の職業生活 .....	110
6 職業生活に関するまとめ .....	127
第8章 家庭生活・社会生活 .....	130
1 はじめに .....	130
2 家庭生活・日常生活参加の積極性 .....	130
3 配偶者との関係 .....	142
4 交際範囲 .....	144
5 生活の評価 .....	145
6 生きがいを感じる事 .....	152
7 現在の家庭生活・社会生活についてのまとめ .....	153
第9章 今後の家庭生活 .....	155
1 はじめに .....	155
2 60歳以降の生活で気がかりなこと .....	155
3 60歳以降のライフプラン .....	156
4 今後の生活についてのまとめ .....	161
第10章 まとめ .....	162

#### 参考資料

第1回調査票（本人票、配偶者票） .....	167
第1回調査基本属性別（年齢階層別、性別、最終学歴別、婚姻上の地位別、居住地別） 集計表 .....	183
第2回調査票（本人票、配偶者票） .....	253
第2回調査基本属性別（年齢階層別、性別、最終学歴別、婚姻上の地位別、居住地別） 集計表 .....	269

## 序章

本調査研究は、以下のような特徴と意義がある。

第1に、特定の主体を追跡して調査する縦断的調査であること。我が国では無数といえるほどの社会調査が実施されている。その多くが横断的調査であり、実施された調査全体に占める縦断的調査の割合は小さい。それゆえ、調査方法、調査実査、データ管理、分析手法など、調査のノウハウを含めた調査方法に関する情報の蓄積も少ない。縦断的調査のプリテストを実施することで、そうした情報を補完することにつながる。

第2に、調査対象者を追跡調査することによって、過去からの職業・生活経歴、能力開発、仕事からの引退過程を明らかにすることができる。また、労働からの引退過程をうまくおくことができた人とそうでない人との違いを労働、家庭生活、社会生活など様々な面について検討し、将来の高齢期のライフスタイルの展望につながる。

第3に、労働に重点をおいた調査であること。中高年を対象として過去に実施されたものおよび現在実施されている既存の縦断的調査をみると、健康、生活、資産形成にウエイトが割かれている。それに対して労働関連項目について割かれるウエイトは相対的に小さい。労働市場に対して、中高年世代が及ぼす影響はきわめて大きい。彼らの就業行動、引退行動、ライフスタイルを明らかにすることは、今後必要な施策を講じる際の基礎データとなると思われる。

第4に、世帯単位の調査であること。先行研究の多くは、男性を中心とした中高年齢者個人を単位として、その職業経歴や生活状況を調べている。しかし、女性の労働力率の高まりを考えると、男性だけを対象とした調査が現実の生活状況を必ずしも十分に描いているとは言えない。また、景気の長期低迷による中高年男性の失業の増加および長期化、所得の伸び悩みを補うために配偶者が追加的に労働力化している。そこで、世帯を単位とする労働供給行動に目を向けることによって実態に即した結果が得られると思われる。

第5に、団塊の世代を含む働き盛りの中高年齢者を対象にする調査であること。いわゆる団塊の世代は、他の世代と異なる特別な意識や価値観をもつ世代として語られることが多い。その議論は時として客観的なデータに乏しい、印象論的なものになることが少なくない。出向・転籍等、ライフコースの選択に直面している中高年齢者を対象に、企業や仕事へのコミットメント、意識、生活の価値観、労働からの引退過程等を調査し、他の世代と比較することによって、今後の就業継続をいかに進めるべきか、そのためにどのようなキャリア形成や能力開発を行うべきかを明らかにすることができる。

